

平成26年度 東蒲原郡阿賀町音楽部 活動報告

部長 木村 佐由理

1 研究主題 楽しい音楽活動の創造

2 研究の概要

子どもたちが楽しく音楽活動に取り組むための手立てや指導力の向上を図るために、情報交換会、実技講習会、授業研究会・協議会の研修を行った。

3 研究の実際

(1) 実技講習会

小熊禮子様を講師にお招きして、和楽器（琴）について学び、「さくら さくら」の演奏の仕方を教えていただいた。琴の美しい音色に浸りながら、日本の伝統文化に親しむ貴重な体験ができた。

日本の伝統文化のよさを継承・発展させていくためには、子どもたちが、我が国の音楽文化に親しみ、自ら表現したり、鑑賞したりすることが重要となっている。琴だけでなく、和太鼓やしの笛などの和楽器を演奏したり、鑑賞したりする機会を積極的に設けて、子どもたちの興味関心を高めていきたい。



(2) 授業研究会・協議会

津川小学校の近正直美教諭から、第4学年の「旋律の特徴を感じ取ろう」という題材で、「剣の舞」と「白鳥」の2曲を聴き比べて曲の特徴を感じ取ることをねらいにして、鑑賞指導について提案していただいた。

曲の特徴を感じ取るとは、曲を構成している要素「音の動き、リズム、速さ、強さ」などを感じ取るということである。児童は、「音の動き」がどういうものかととらえにくいことや曲の特徴を感じ取ることができても、それを文章化することが難しいという実態があった。そこで、「音の動き」を理解させるために身体表現を取り入れて指揮をさせながら聴かせたり、感じたことを言葉で表現するために、曲の特徴についてとらえた「音楽ことば」を音楽室に例示しておき、児童がそこから選べるようにしたり、曲想の異なる2曲の特徴的な部分を比べて聴かせることで、それぞれの曲の「音の動きや速さ、強さ」などの違いをとらえ易くしたりするなどの手立てを工夫した。

児童は、曲の特徴に合わせて身体表現をしながら楽しく鑑賞することができた。また、ワークシートに、感じ取った曲の特徴を絵や言葉で表すことができていた。感じ取ったことを児童から引き出す手立てとして、ワークシートに書かせたり、児童を互いに交流させたりすることが有効であることが分かった。上条小学校の長谷川和子教頭より、鑑賞の授業は、ただ聴かせて感想を書かせるのではなく、その曲で何を感じ取らせたいのかというねらいを絞って、手立てを工夫することが大切であるということをご指導いただくことができ、有意義な研修となった。



4 成果と課題

研修を通して、お互いの音楽授業を通して感じている悩みを気軽に話し合ったり、講師の先生から実技指導をしていただいたりして、子どもたちが楽しく音楽活動に取り組むための工夫を考えることができた。

楽器や音響機器など、音楽室の環境が学校において違う実情があるが、どの学校でも、子どもたちが楽しい音楽活動に取り組んでいけるように、研修で学んだことを生かしていきたい。